

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書③

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 II・IV 】
2 実施対象者	郡上市立明宝小学校 (全校児童 60名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 生活科・総合的な学習の時間 )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( 朝活動の時間・全校集会 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロンビア共和国の言葉や文化などを知ることを通して、国際交流に意欲を高め、積極的にコミュニケーションすることができると共に、日本や郡上の文化の良さについて、改めて感じ取ることができる</li> <li>・コロンビア女子ユースラグビー選手との準備や交流を通して、おもてなしの気持ちを表すとともに、2020東京オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めることができる。</li> </ul>
5 取組内容	<p>1 事前の取組</p> <p>(1) 「コロンビアの選手がやってくるよ」オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特活担当から、コロンビアの予備知識と、チームや選手の紹介をする。</li> <li>・ただ交流をするだけではなく、準備等を含めた活動の見通しを伝える。</li> </ul> <p>(2) ウェルカムボードづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班ごとに、選手一人一人のウェルカムボードを作成する。</li> </ul> <p>(3) 国旗づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班ごとに全員が、コロンビアと日本の国旗を作成する。</li> </ul> <p>(4) コロンビアを知ろうクイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お昼の放送で、コロンビアのあいさつ等の「スペイン語講座」、「コロンビアと言えば?」、「日本と違う習慣」などをクイズ形式で行う。</li> </ul> <p>2 交流会 9月14日(金)</p> <p>(1) お出迎え後、各学級に分かれて給食を食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級3～4名の選手をお迎えし、一緒に給食を食べる。</li> <li>・教室にあるものや毎日の生活について、通訳は1名し</li> </ul>



か見えないので、英語と身振り手振りで説明する。

(2) 縦割り班と一緒に、掃除をする。

- 「学校の掃除をする体験はないので、できれば入れください。」とのお話だったので、取り入れる。ここでも、子どもたちが身振り手振りで掃除の仕方を教える。



(3) 交流会

① 郡上踊り「春駒」を踊る。

② 縦割り班ごとに、遊ぶ。

- おりがみ、お手玉、だるまさんが転んだ、けん玉、はないちもんめ

③ コロンビア選手の皆さんからダンスを習う。

- 歌とダンスが大好きな選手の皆さんから、ダンスを習い、一緒に踊る。



3 事後の活動

(1) ラグビーの紹介をする。

(2) ラグビー女子ユース郡上大会の様子を伝える。



## 6 主な成果

(感想より)

- 今日、コロンビアの女子ラグビーの選手のみなさんが来てくれました。全員美人な方でとても素敵なやさしい人でした。1日中楽しかったし、わくわくしていました。私が1番心配だったことは「しっかり伝えたいことが伝わるか」だったけど、伝わってうれしかったです。お別れの時はとても悲しくて、帰ってほしくなかったけど、笑顔でバイバイできてよかったです。(第6学年)
- 14日に、明宝小学校にコロンビアの女子ラグビーのユースチームの方がいらっしゃいました。お出迎えをした後、一緒に給食を食べて、郡上踊りやこだま班遊びをしました。「ソーイ、OO」と、スペイン語で自己紹介をしたり、言葉はうまく通じなくても、手や体の動き、表情を使って気持ちを通わせたりしている姿がいろんなところで見ることができてうれしかったです。

(第3学年 通信より)

クラブの指導員で来ていただいていた市教委学校教育課のスポーツ振興課の方が、「コロンビアの選手と交流をしませんか。」と声をかけていただき、スタートした活動である。郡上市がコロンビアのホストタウンになったこともあり、児童にとって触れ合えるよい機会とな

った。

また、準備を通しておもてなしの心をもつこと、その思いが伝わり、選手の皆さんが大変喜んでくださったこともよかった。活動を通して、コロンビアやラグビーが少し身近に感じられるようになった。また、何とかわかってほしいという気持ちで接すれば、コミュニケーションが取れることが分かり、国際交流に対する抵抗がなくなり、意欲につながった。



7実践において工夫した点  
(事業の特色)

- 本校の担当者が、交流するにあたって心配なことを、市教委の担当者と細かく打ち合わせをしたり、質問したりした。「もっと楽に交流しましょう。」と言ってもらえたのが、ありがたかった。
- ラグビーと一緒にやることも考えたが、日本の文化について知りたいとのことだったので、郡上ならではの踊りも取り入れながら上記の内容を計画した。
- 郡上での大会が休みの日であったので、試合を見ることはできなかった。全校集会の時に校長先生から試合の様子をビデオで見せてもらい、にこやかな交流の様子とは違う真剣な様子もわかり、2020東京オリンピックへの関心も高まった。

8主な課題等

- 交流が初めてということもあり、文化の違い等、心配な点が多くあった。今回は担当者同士がこまめに連絡を取り合ってその都度解決していったが、本当に大変であった。
- 児童にとってよい機会となったが、教育活動のどこに位置付けていくとよりよいのかを考えていく必要があると思った。

9来年度以降  
の実施予定

- 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ホストタウンの一員としてどんなことができるのかを考えさせていきたい。
- ラグビーについては、体育の学習にタグラグビーを取り入れていくと共に、軽スポーツクラブをタグラグビークラブに変更し、大会出場を目指す。